

ネットワークアンケート ④1

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院では、動脈硬化の検査を糖尿病患者さんへ定期的に行っていますか？

糖尿病は“血管の病気”とも言われますが、三大合併症（網膜症、腎症、神経障害）のみならず、太い血管に生じる「動脈硬化」への理解は医療従事者をはじめ、患者さんにとっても重要事項です。今回のアンケートでは、血管を守ること（合併症予防）を大きな目的とする糖尿病治療において、動脈硬化についての検査や指導はどのように実施されているかを伺ってみました。

[回答数：医療スタッフ121名（医師15、看護師45、管理栄養士29、薬剤師11、臨床検査技師7、理学療法士5、その他9など。うち日本糖尿病療養指導士28）、患者さんやその家族422名（病態/1型糖尿病133、2型糖尿病265、境界型17、その他7、治療内容/食事療法303、運動療法252、経口薬227、注射薬23、インスリン療法226/重複回答有）]

定期的な検査は「必要のある患者さんのみ」という方が30%、「患者さん全員」は20%、「必要時のみ」が17%でした。検査を「特に行っていない」と回答した方は14%で、検査を定期的に行っていない理由は、「患者さんのコスト負担増」が30%、「医療機関の設備コスト増」17%、「時間がない」17%で、コストや時間の問題が大きいようです。

次に、動脈硬化の検査を行うべき患者さんについて聞いてみたところ、「糖尿病患者さん全員」との回答が70%、「脂質異常症がある患者さん」が47%で、「血糖コントロールがよくない患者さん」、「高血圧があ

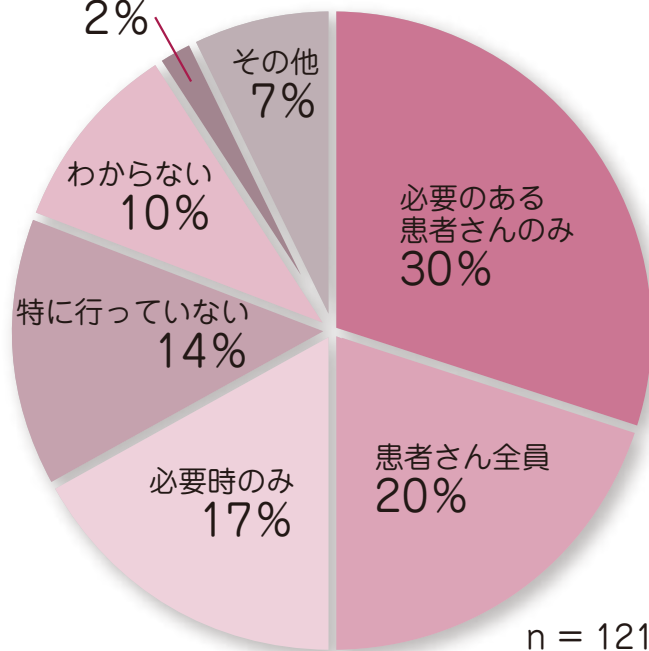
る患者さん」が各44%、「喫煙習慣がある患者さん」43%と続きました。検査は「患者さん全員に行うべき」との思いと、実際に行っている検査対象者にはギャップがみられます。しかし、糖尿病があると動脈硬化が進みやすい、という指導自体は9割以上の医療スタッフがやっていることから、必要時

Q. 動脈硬化の検査は、どのような糖尿病患者さんが行うべき？

(n=121)

糖尿病患者さん全員	70%
脂質異常症がある	47%
血糖コントロールがよくない	44%
高血圧がある	44%
喫煙習慣・喫煙歴がある	43%
糖尿病の罹病歴が長い	43%
メタボ、肥満がある	39%
網膜症や腎症などの合併症がある	36%
足病変がある、足の治療中	33%
心筋梗塞や脳梗塞などを患った家族がいる	28%
40歳以上の男性	17%
閉経後の女性	17%
透析治療中	17%

初診時のみ
患者さん全員
2%



以外は知識の啓蒙に留まっている現状が推測されます。

自由記述では、「外来患者に対し何の検査をどの程度定期的に行うかの基準がない」、「検査をしてもその後、具体的な治療を行わないと病院の利益につながる事が少ない」、「実施すべき患者を示すマーカーがないので基本的には毎年全員実施している」、「検査を行っても指導に活かしていない」、「検査や情報提供書作成のコスト、検査についての説明と同意の時間確保、他院検査の場合の結果レポートのばらつき等、課題が多い」検査実施で、これ以上進行させないために何をしたら良いのかを考えるきっかけ作りになる。療養指導のチャンスだと思うので、その後に看護師の面談や管理栄養士の栄養相談などを組み入れて欲しい」など、課題の声が多く寄せられました。

Q. 糖尿病と動脈硬化について、糖尿病患者さんへ指導を行っていますか？

(n=121)

